

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質、粉じん等）の結果について（お知らせ）

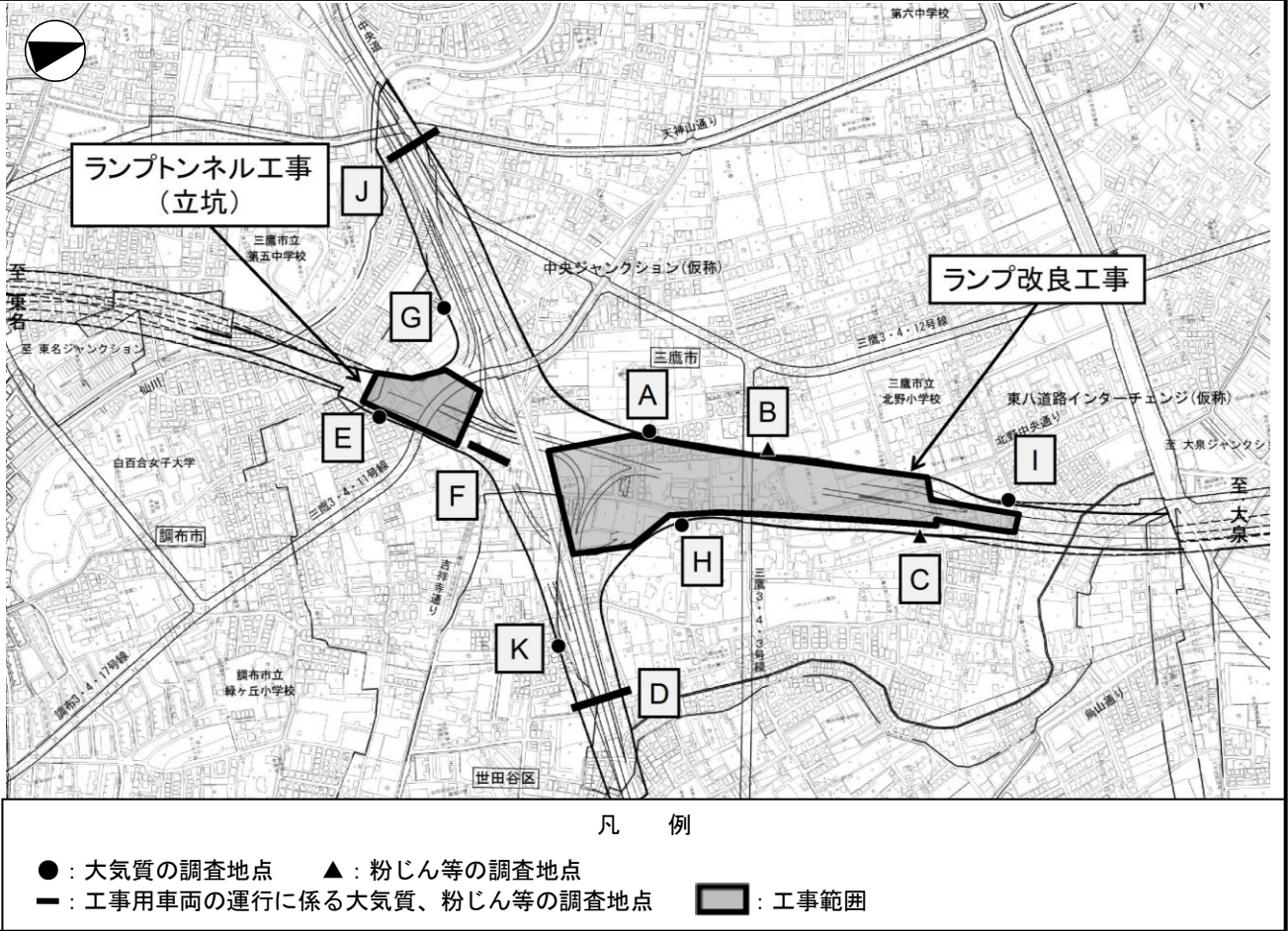
中央 JCT・東八道路 IC（仮称）周辺 大気質、粉じん等調査

夏季（令和4年6月～令和4年8月）に実施した大気質、粉じん等調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

- 夏季
大気質 : 令和4年6月22日(水)～6月28日(火) (7日間)
令和4年7月5日(火)～7月11日(月) (7日間)
令和4年7月13日(水)～7月19日(火) (7日間)
令和4年7月22日(金)～7月28日(木) (7日間)
令和4年7月25日(月)～7月31日(日) (7日間)
令和4年8月1日(月)～8月7日(日) (7日間)
粉じん等 : 令和4年6月6日(月)～7月6日(水) (1ヶ月間)
令和4年6月20日(月)～7月20日(水) (1ヶ月間)
令和4年6月27日(月)～7月27日(水) (1ヶ月間)
令和4年7月4日(月)～8月3日(水) (1ヶ月間)
令和4年8月1日(月)～8月31日(水) (1ヶ月間)

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日9：15～18：00）

◆調査結果

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	B	C
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	2.6	3.4

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D	F	J
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	1.7	3.0	2.3

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)】

- 二酸化窒素 (NO₂) については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質 (SPM) については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査日	A			調査日	E		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
7月13日	0.010	0.008	0.017	7月25日	0.004	0.017	0.038
7月14日	0.009	0.011	0.019	7月26日	0.005	0.018	0.033
7月15日	0.017	0.015	0.021	7月27日	0.004	0.015	0.023
7月16日	0.008	0.010	0.015	7月28日	0.004	0.014	0.018
7月17日	0.005	0.013	0.029	7月29日	0.007	0.015	0.023
7月18日	0.011	0.021	0.034	7月30日	0.007	0.018	0.026
7月19日	0.010	0.021	0.040	7月31日	0.009	0.022	0.029
期間内平均	0.010	0.014	—	期間内平均	0.006	0.017	—

調査日	H			調査日	I		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
7月22日	0.007	0.025	0.031	6月22日	0.010	0.024	0.044
7月23日	0.010	0.024	0.032	6月23日	0.013	0.023	0.032
7月24日	0.007	0.019	0.028	6月24日	0.005	0.019	0.028
7月25日	0.006	0.019	0.033	6月25日	0.004	0.023	0.034
7月26日	0.007	0.019	0.031	6月26日	0.004	0.015	0.036
7月27日	0.005	0.017	0.027	6月27日	0.017	0.027	0.052
7月28日	0.006	0.015	0.022	6月28日	0.016	0.035	0.053
期間内平均	0.007	0.020	—	期間内平均	0.010	0.024	—

※ 調査地点 G、K の周辺では、6月～8月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)】

- 二酸化窒素 (NO₂) については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質 (SPM) については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査日	D			調査日	F			調査日	J		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
8月1日	0.008	0.019	0.027	6月22日	0.016	0.026	0.045	7月5日	0.008	0.012	0.021
8月2日	0.009	0.030	0.131	6月23日	0.017	0.025	0.036	7月6日	0.007	0.011	0.015
8月3日	0.012	0.035	0.043	6月24日	0.006	0.022	0.032	7月7日	0.008	0.009	0.015
8月4日	0.013	0.019	0.033	6月25日	0.005	0.027	0.040	7月8日	0.008	0.011	0.018
8月5日	0.009	0.012	0.016	6月26日	0.005	0.019	0.034	7月9日	0.006	0.013	0.021
8月6日	0.009	0.017	0.037	6月27日	0.019	0.027	0.039	7月10日	0.003	0.012	0.016
8月7日	0.009	0.021	0.037	6月28日	0.018	0.034	0.052	7月11日	0.007	0.016	0.028
期間内平均	0.010	0.022	—	期間内平均	0.012	0.026	—	期間内平均	0.007	0.012	—

◆参考

◆環境基準

二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
（「二酸化窒素に係る環境基準について」（環境庁告示））
浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
（「大気の汚染に係る環境基準について」（環境庁告示））
※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km²/月以下
※降下ばいじん量に環境基準はありません。環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）
なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

* 「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自第84号）